

2022 年度 第 2 四半期 決算説明会 質疑応答要約

Q) 第 2 四半期の事業セグメント利益について、社内計画比での状況を教えてください。

A) 社内計画からは大きく下振れた。その大半が P&S 事業によるもの。消耗品の売上減に加え、部材コストの高騰が想定よりも長期化していることが大きな要因。

Q) 第 1 四半期から第 2 四半期にかけて、海上輸送費や一部の素材の価格は下がっているにもかかわらず、コストが悪化しているのはなぜか。

A) 物流費は年間契約のため、足元で価格が下がってもその影響は少ない。
部材費は、物により下がっているものもあるが、コストアップ分の方が大きく、コストが悪化した。

Q) P&S 事業について、第 2 四半期に消耗品売上が大きく減少した要因として、米国での物流混乱があったとのこと。詳しく説明してほしい。

A) 海上輸送のリードタイムが長期化していたが、徐々に改善され、想定以上に早く、物が届くようになった。それにより、港に届いた製品を保管する倉庫のスペースや、出荷時のシャーシ、トラックなどの運搬手段、それらのオペレーション人材の確保が追い付かず、出荷に影響が出た。

Q) 物流の混乱が解消されれば、売上は戻るのか。

A) 第 2 四半期のセルアウトは悪くなく、チャネルの在庫水準も下がってきているため、下期は期初に想定していたとおりに進捗する見込み。

Q) 欧州では、消耗品の値上げ前の駆け込み需要の反動減があったとのこと。駆け込み需要の反動減はどのくらいの期間継続したのか。

A) 欧州では 5 月に消耗品の値上げを行ったため、第 1 四半期に駆け込み需要があった。元々、反動減を見込んでいたが、8-9 月になっても戻らなかったため、第 2 四半期の消耗品のセルインが落ち込んだ。10 月以降は、戻ってきていることから、下期は期初想定通りに推移すると見ている。

Q) 製品本体は供給制約が緩和され、売上を大きく伸ばしたが、チャネルの流通在庫の充足感やセルアウトの状況はどうか。

A) セルアウトは増えてきているが、製品本体のチャネル在庫は LBP と IJP とで温度差がある。特に LBP は、ブラザーの供給がお客様のご要望に十分にこたえられておらず、チャネル在庫は充足できていない。

Q) 産業機器の受注は、景況感の悪化によりダウンサイクルに入る懸念があると思うが、下期以降の見通しについて教えてください。

A) 第 1 四半期に比べ、第 2 四半期の受注が下がっているように見えるが、第 1 四半期は、部材不足による供給制約があった中で、お客様が在庫を充足させるために前倒しで発注をされたという特殊要因があった。

現時点で景気後退による設備投資需要減退の兆候はなく、下期の需要が大きく落ち込むことは想定していない。